

要 約

試験委託者

環境省

表題

ベンザルアセトンの藻類 (*Pseudokirchneriella subcapitata*) に対する生長阻害試験

試験番号

0710-201

試験方法

本試験は、厚生労働省医薬食品局長、経済産業省製造産業局長及び環境省総合環境政策局長通知「新規化学物質等に係る試験の方法について」（平成15年11月21日付け薬食発第1121002号、平成15・11・13製局第2号、環保企発第031121002号、平成18年11月20日最終改正）に準拠して実施した。

- | | |
|---------------|---|
| 1) 被験物質 | : ベンザルアセトン |
| 2) 暴露方式 | : 開放系（通気性シリコン製栓）、振とう培養（100 rpm） |
| 3) 供試生物 | : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> (ATCC 22662) |
| 4) 暴露期間 | : 72時間 |
| 5) 試験濃度（設定値） | : 公比を1.7とし、0.250、0.430、0.720、1.23 及び2.09 mg/L
の5 試験濃度区を設定した。別に対照区を設けた。 |
| 6) 試験液量 | : 100 mL／容器 |
| 7) 連数 | : 3容器／試験濃度区、6容器／対照区 |
| 8) 初期生物量 | : 1.0×10^4 cells/mL |
| 9) 試験温度 | : 23℃設定（変動幅は±2℃） |
| 10) 照明 | : 蛍光灯による連続照明
(波長400～700 nmの範囲の光量子について60～90 $\mu\text{mol} \cdot \text{m}^{-2} \cdot \text{s}^{-1}$) |
| 11) 助剤の種類 | : 使用しない |
| 12) 試験液中の助剤濃度 | : - |
| 13) 分析方法 | : HPLC |

結果

1) 試験液中の被験物質濃度

暴露開始時における各試験濃度区の設定濃度に対する実測濃度の割合は、81～89%、暴露終了時の割合は 6～61%であった。被験物質濃度減少の主な原因は、藻体への吸着と考えられたため、50%生長阻害濃度 (ErC50) 及び最大無作用濃度 (NOEC) の算出には、各試験濃度区の初期実測濃度を用いた。

2) 生長速度の比較による阻害濃度

ErC50 (0-3d)	:	0.553 mg/L (95%信頼区間: 0.480 - 0.636 mg/L)
NOECr (0-3d)	:	0.202 mg/L